

第六節 敷地建物の変遷

本百年史第一巻で既述したように、文部省内の一つの掛として明治十二年十月に誕生した音楽取調掛は、翌十三年三月に本郷文部省用地内第十六番館（現・東京大学法文経の校舎附近）において取調べの事業を開始した。十八年には上野公園東四軒寺跡（現・国立科学博物館の場所）に移り、この地で明治二十年十月四日を迎え東京音楽学校と改称される。明治二十三年五月十二日には上野公園元西四軒寺跡に新築校舎が落成、現在地へ移転した。もう少し正確を期すならば、平成十年三月に竣工した現在の奏楽堂のあたりである。現在の音楽学部正門から管理棟あたりまでの土地は、新制大学に移行する以前は東京美術学校の一部であった。

さて明治二十三年の新築当時「三百八拾貳坪六合六寸五才」であった校舎はその後たびたび増改築を繰り返し、明治の終わりには「六百十二坪八寸三才」に拡充されている。

本節では明治二十三年以降、明治年間のおもな増改築の記録と、大正初期、昭和初期、および東京音楽学校の終わり頃の図面を掲載する。明治年間については本百年史第一巻二九二頁と二九三頁に明治三十三年当時の図面を掲載してあるので、そちらもご参照いただきたい。大正と昭和の増改築の概要は巻頭の年譜に記している。なお昭和十年代後半の建物については、本書第二節二にも一部資料が含まれる。

新校開業式の二週間後、早くも練習室が増築される。「同月廿六日更ニ練習室棟文部大臣ヨリ交付セラル此面積四十坪ナリ」（『東京音楽学校一覽 従明治廿三年至明治廿四年』十四頁）。この年の敷地建物に関して次のように報告されている。

第六章 敷地建物

東京音楽学校ハ東京市下谷區上野公園地内舊西四軒寺跡ニ在リテ本年五月十二日新築落成セルモノニ係リ敷地面積七千八百七拾七合七夕ニシテ建物ノ面積四百二十二坪六合六寸五才ナリ

（『東京音楽学校一覽 従明治廿三年至明治廿四年』五四頁）

明治二十五年度の同書では図面はないが、初めて建物の具体的な内訳が記される。建物面積「三十四坪七合五夕」の増加がどの部分によるものであるかは、この資料による限り明らかではない。

第八章 敷地建物

東京音楽学校ハ東京市下谷區上野公園地内舊西四軒寺跡ニ在リ敷地面積七千八百七拾七合七夕ニシテ建物ノ面積四百五十七坪四合壹夕五才ナリ之ヲ區分スレハ

事務室	二十六坪二合五寸
教場	百四拾五坪五合
應接所	五坪二合五寸
教員室	拾六坪五合
食堂	三拾四坪
生徒扣所	三拾四坪
宿直所	五坪
間内廊下	九拾九坪
附屬建物	九拾一坪九合一寸五才

二階分

- 事務室 拾坪〇五合
- 書器室 拾五坪七合五勺
- 奏樂堂 百三拾坪五合
- 教場 八拾九坪七合五勺
- 教員室 拾坪五合
- 間内廊下 六拾一坪

(東京音楽學校一覽 從明治二十五年至明治二十六年 六七〇六八頁)

同書「從明治二十九年至明治三十年」では敷地面積「七千七百七十五坪六合五勺」と記載されているが、その後数年分の『東京音楽學校一覽』の記載から推して「七千七百七十五坪六合五勺」の誤りであろうと思われる。

建物面積は明治三十二年度には四百六十二坪九合一勺五才に増える。この時の図面は本百年史『東京音楽學校第一卷』に掲載されている。前年度との比較のため、三十二年度分を載せておく。

第八章 敷地建物

本校ハ東京市下谷區上野公園地内舊西四軒寺跡ニ在リ敷地面積七千七百七十五坪六合五勺ニシテ建物ノ面積四百六十二坪九合壹勺五才ナリ之ヲ區分スレハ

- 事務室 三十六坪二合五勺
- 教室 八十六坪四合壹勺七才
- 練習室 六十五坪
- 應接所 五坪二合五勺

教員室 十五坪七合五勺

食堂 二十五坪三合三勺三才

生徒扣所 二十四坪

小使室 五坪

宿直所 九坪

湯呑所 九坪

便所 十三坪六合六勺五才

間内廊下 九十八坪五合

土間 三十五坪五合

附屬建物 三十四坪二合五勺

二階分

校長室 十坪五合

書器室 十五坪七合五勺

奏樂堂 百三十坪五合

教室 四十七坪二合五勺

練習室 三十五坪

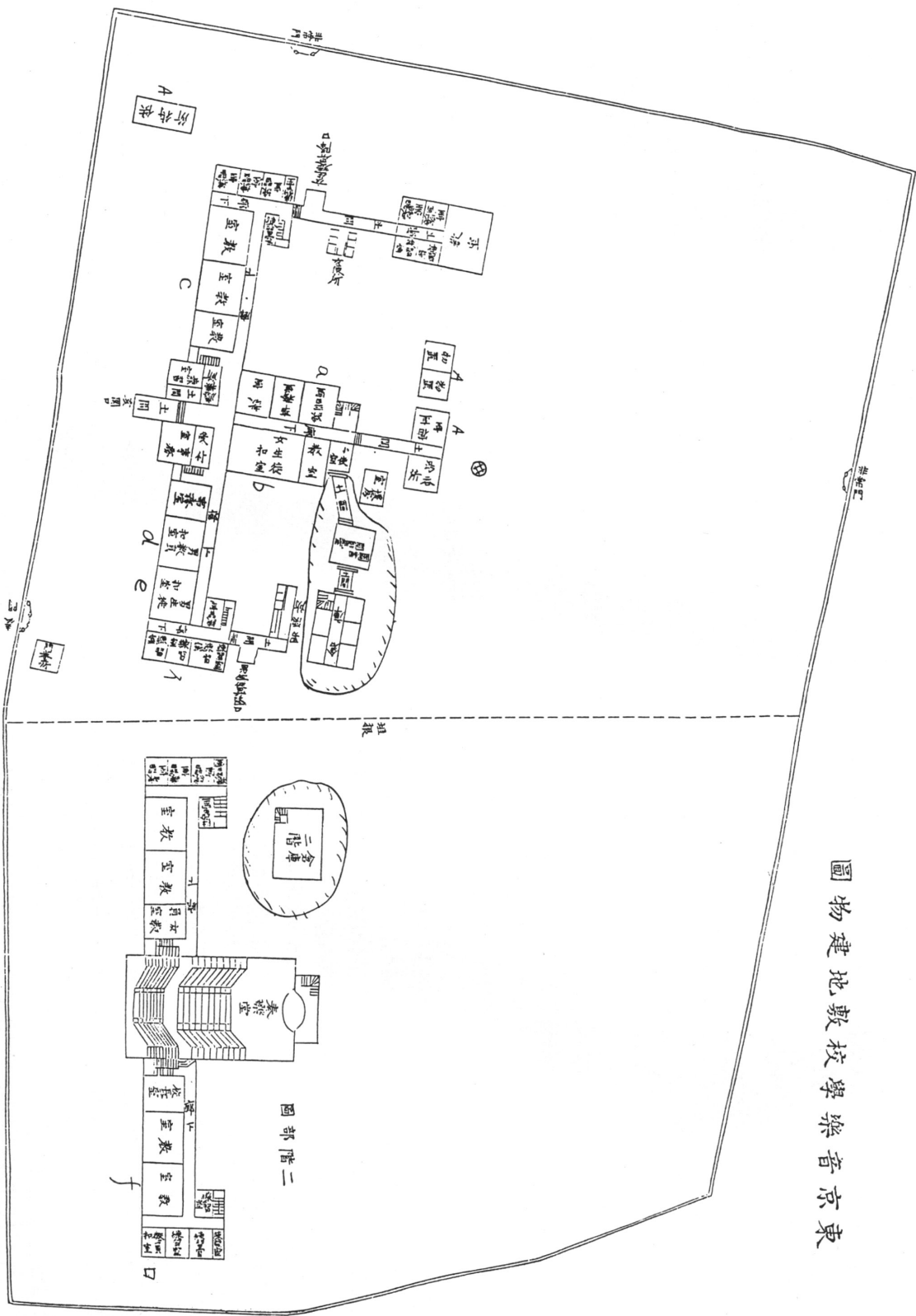
教員室 十五坪五合

間内廊下 五十八坪

(東京音楽學校一覽 從明治三十二年至明治三十三年 九五〇九七七頁)

三十四年「七月十七日煉瓦造建物二十四坪木造建物十九坪二合五勺倉庫及圖書閱覽室用トシテ文部大臣ヨリ交附セラル」(前掲書「從明治三十四年至明治三十五年」一七頁)とあり、この時点で建物面積は五百六坪一合六勺五才に増えた。明治三十四年度の敷地建物図に見られるように、

東京音樂學校敷地建物圖



〔東京音樂學校一覽 從明治三十四年至明治三十五年〕卷末)

○で囲った部分は新築であり、倉庫と図書閲覧室と土間ができた。「二階部置」にある「倉庫二階」の位置は、本来ならば一階の倉庫の上にあつて演奏堂よりも南に描かれるはずである。これは便宜的なものであろう。図面中、a「練習室」は前年度まで「女生徒扣室」であつた。b「女生徒扣室」は食堂であつた所。c教室は「男教員扣室」であつた。dとeはともに教室から転用されたもの。二階のf教室は「書器室」であつた。

年々の建物面積の変化は、このような増改築以外に、部屋の利用を変えたり場所を交換したりといった事情によるものである。ちなみに三十四年度は図面上は食堂が削除されているが、これは三十七年度に「男教員室」を食堂にしたことよつて復活した。

三十五年には前年度図面のAで示した所がいずれも「練習室」になり、「練習室」は大幅に増えた。たとえば「供待所」は五室、「物置」は八室となつた。建物面積は二合増えて五百六坪六合六勺五才となつた。

三十六年には、前掲の図面中イが「生徒取締室」、二階のロが「外国人教師扣室」となる。

三十八年には次のような増改築が行われる。

三十八年七月改築ノ爲メ木造建物三坪六合六勺七才ヲ減シ更ニ貳拾七坪六合六勺七才ヲ奏樂準備室及事務室用トシテ交付セラル

〔東京音楽学校一覽 從明治三十八年至明治三十九年 一〇頁〕

建物面積は全体では前年度に比して約三十五坪増えて五百四十一坪九合一勺五才となつた。詳細な内訳は省略するが、次頁に掲載する大正二年度の敷地建物図のうち○で囲つて〔M38〕と記した部分は三十八年度の増築によるものである。

三十九年度の内訳では教室と物置が増えて「土間」、「暖房室」、「練

習室」が減るなどして全体としては五百三十九坪八勺三才に減じている。四十年には四十年十月に設置された邦楽調査掛のために、一室が「邦楽調査室」となり、食堂が削られた。続く二年間も建物面積に変更はみられない。

四十三年二月敷地内ニ新築ノ建家七十三坪ヲ交付セラル〔東京音楽学校一覽 從明治四十三年至明治四十四年 二頁〕。大正二年度の敷地建物図のうち○で囲つて〔M43〕と記した部分がこれに相当する。新築校舎の一階部分には「邦楽調査室」が移つてそれまでの二倍ほどの広さになり、「男生徒扣室」も移つた。二階部分は三教室が生まれ、大正二年度の図面に見られるのと同じ部屋割りである。この結果、建物面積は六百二十二坪八勺三才となつた。四十三年の増築により、従来表門を入つて右にあつた門衛所は左側に移され、以後ここが定位置となる。

四十四年三月、本校敷地内の寄宿舎竣工にともない、本郷区西須賀町の仮寄宿舎を閉舎した〔東京音楽学校一覽 從明治四十四年至明治四十五年 一二頁参照〕。寄宿舎建物図は、初出となる大正三年度の分を掲載する。

四十五年度、校舎についての変化は報告されていない。

大正二年度の敷地建物図によると、前年度に比して建物面積は六坪増え、細かい所では「練習室」が「應接室」になり、「應接室」だつたところは「受付所」となり、もと「受付所」は物置になるなどの変更がみられる。

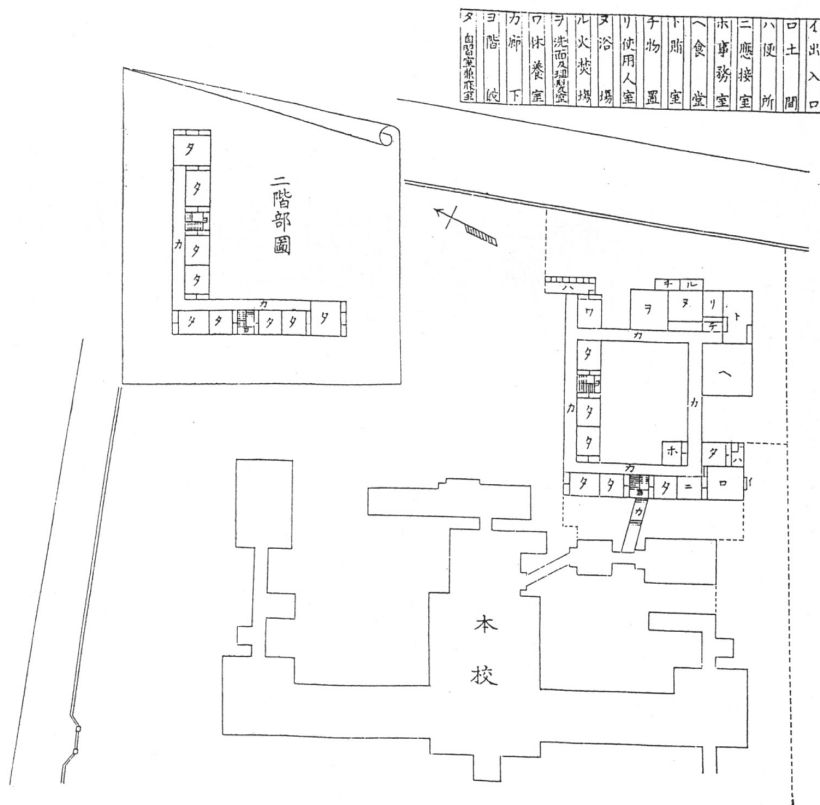
第十一 敷地建物

本校ハ東京市下谷區上野公園地内舊西四軒寺跡ニ在リ敷地面積七千七百五坪六合五勺ニシテ建物ノ面積六百八十八坪八勺三才ナリ之ヲ區分スレバ

女 關 八坪三合三勺三才

事務室 三十三坪

教 室	九十三坪四合
練習室	八十七坪八勺三才
生徒監室	五坪
應接所	六坪五合
男教員控室	二十六坪二合五勺
男生徒控所	二十四坪
女生徒控所	三十四坪
女生徒取締室	三坪七合五勺
邦樂調査室	二十八坪
宿直室	四坪五合八勺三才
小使室	四坪五合八勺三才
食 堂	二十二坪
受付所	三坪二合五勺
湯呑所	九坪
生徒昇降口	四坪五合
便 所	十三坪三合三勺三才
廊 下	百二十六坪一合八勺四才
土 間	三十八坪五合
門番所	四坪五合
暖房室	四坪
物 置	三十四坪三合三勺四才
二階分	
校長室	十坪五合
奏樂堂	百四十二坪五合



東京音樂學校寄宿舎建物圖

〔東京音樂學校一覽 從大正三年至大正四年〕卷末

教室	百六十八坪七合五勺
練習室	十三坪七合五勺
女教員控室	十坪五合
外國教師控室	五坪
廊下	六十六坪五合
倉庫	二十四坪

〔東京音楽學校一覽 從大正二年至大正三年〕一七一〜一七三頁

大正三年の敷地建物に変更はないが、新たに寄宿舍建物図を見ることができると掲載しておく(前頁)。なお前掲書の「敷地建物」の項には「外二借入レノ寄宿舍建物面積百九十坪五合内二階八十八坪五合同敷地内ニアリ」と追加されている。また『東京音楽學校一覽 從大正九年至大正十年』(一二六頁)では寄宿舍建物面積が五坪増えて百九十五坪五合となっている。

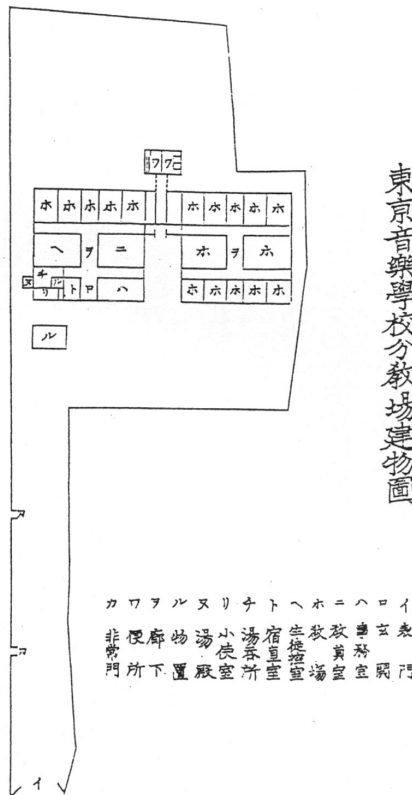
大正十年五月、校舎の北端に木造二階建ておよびこれに続く渡り廊下が新築され、建物面積は六百五十六坪三勺三才となる(『東京音楽學校一覽 從自大正十年至大正十一年』では建物の内訳と図面のみ変更されており、建物面積の記載は次年度で改められている)。後出の昭和二年の建物図中、○で囲って「T10」と記した部分がこれである。

十一年四月、敷地七千七百五坪六合五勺のうち三千二百八十坪を帝国図書館の敷地に移管し、この結果、敷地面積は三千八百五十七坪六合五勺となる。これまでの敷地建物図では校舎一階部分の右、すなわち南々東の端が点線になっていたが、後出の昭和二年度では二重線で区切られている。また十一年度は「練習室」、「倉庫」、「教場」などを相互に大幅に移動し、新たに「教務主任室」を置くなどしている。

分教場は、東京音楽學校が高等師範學校附屬音楽學校であった明治三十一年五月、東京市神田区一橋通町高等師範學校附屬地に設置され、選

科の一部と小学唱歌講習科がここに移されていたが、大正十二年九月の大震災により焼失。東京聾啞學校校舎の一部を借りて十一月より再開し、十三年三月、元敷地に分教場仮建物二百坪を交付された。十月にはさらに物置と廊下が交付される。この建物は昭和二年九月に分教場が神田区錦町に移転するまで使用された。『東京音楽學校一覽 從大正十三年至大正十四年』に当時の建物図が載っている。十三年九月には寄宿舍建坪百七十三坪五合を購入した。

東京音楽學校分教場建物圖



〔東京音楽學校一覽 從大正十三年至大正十四年〕卷末

大正十四年四月「新築ノ汽罐室二十八坪ヲ交付セララル」と『東京音楽學校一覽』の沿革略には記されているが、実際には同書「從大正十三年至大正十四年」の敷地建物図に「暖房室」としてすでに載っている。昭和二年の「レ」の符号を付された部分である。

正確には大正十四年四月に交付されたものは「汽罐室」「暖房装置」「給水装置」「電燈装置」であり、これは「震災應急費ヲ以テ施行シタル」ものであることを当時の書類は示している(『自大正十年度至昭和七

年度 國有財産關係書類 東京音楽學校會計課」による。これら四つのうち、「給水装置」のみ大正十四年四月に工事が行われ、あとの三つはいずれも十三年三月に起工され竣工をみている。したがって「暖房室」は交付以前の建物図に加えられたものである。次に昭和初期の敷地建物の資料を掲載する。分教場の図面は一時移転していた神田区錦町の東京外国語学校敷地内の時のものである。

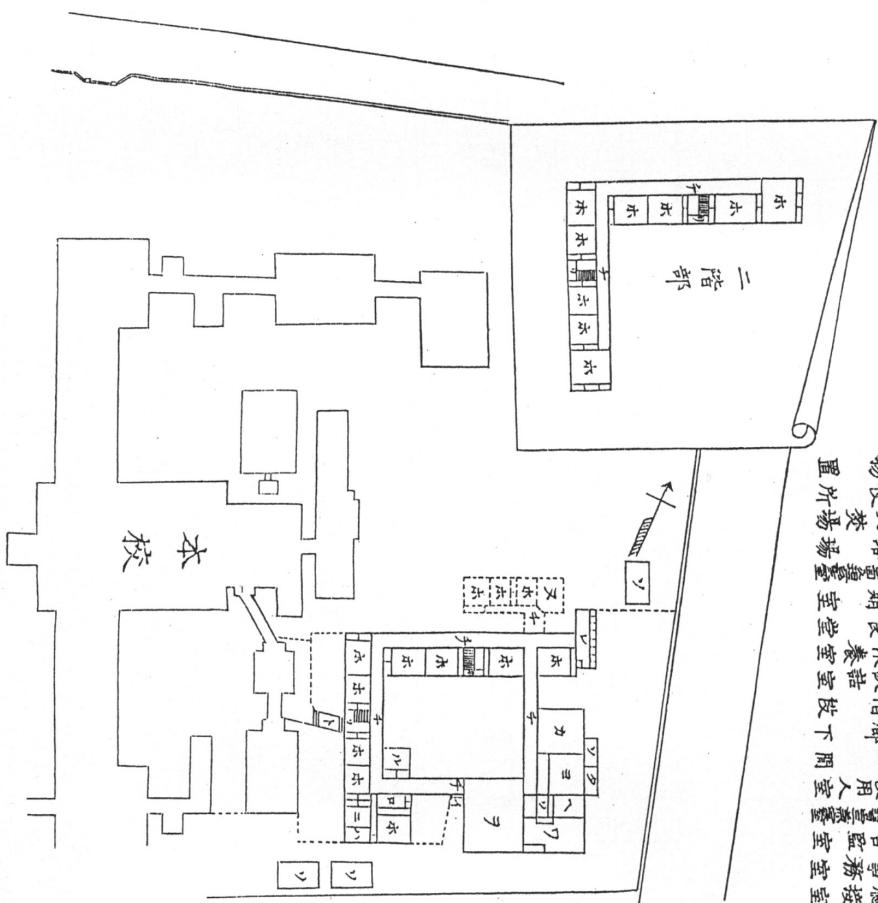
第十五 敷地建物

本校ハ東京市下谷區上野公園地内舊西四軒寺跡ニ在リ敷地面積三千八百五十七坪六合五勺ニシテ建物ノ面積八百六十七坪五合三勺三才ナリ之ヲ區分スレバ

玄 關	八坪三合三勺三才
事務室	三十一坪五合
教 室	百五十四坪六合六勺六才
練習室	七十二坪
應接所	六坪五合
男教員控室	十五坪七合五勺
第二女教員控室	八 坪
男生徒控所	二十四坪
女生徒控所	二十坪
邦樂調査室	十坪五合
宿直室	八坪六合六勺七才
小使室	九 坪
食 堂	十四坪
受付所	三 坪

湯呑所	九 坪
生徒昇降口	二坪二合五勺
便 所	十三坪五合八勺三才
廊 下	百三十三坪七合
土 間	四十五坪五合
門 番 所	四坪五合
物 置	三十七坪五合八勺四才
倉 庫	二十四坪
機關室	二十八坪
寄宿舎	百八十三坪五合
二 階 部	
校長室	十坪五合
教頭室	十五坪七合五勺
生徒監室	百四十二坪五合
奏樂堂	百六十六坪二合五勺
教 室	三十二坪五合
練習室	十坪五合
女教員控室	七十四坪
廊 下	二十四坪
倉 庫	八十八坪五合
寄宿舎	外ニ借入レノ寄宿舎建物面積二十一坪
分教場ハ東京市神田區錦町三丁目十四番地ニ在リ建物ハ二階建ニシテ此ノ面積延坪二百十八坪ナリ之ヲ區分スレバ左ノ如シ	

東京音楽学校寄宿舎建物圖

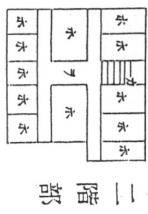
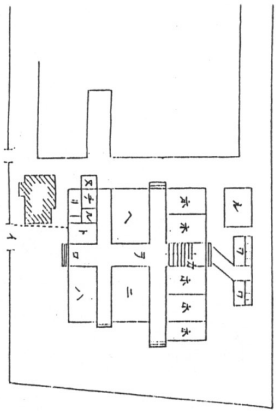


符號
イ出入口
ハ事務室
ニ合宿室
ホ皇座室
ヘ使用人室
ト土間
チ廊下
リ談話室
ニ休息室
ハ食堂
カ期室
コ浴室
ク火場
ケ便所
コ外置物

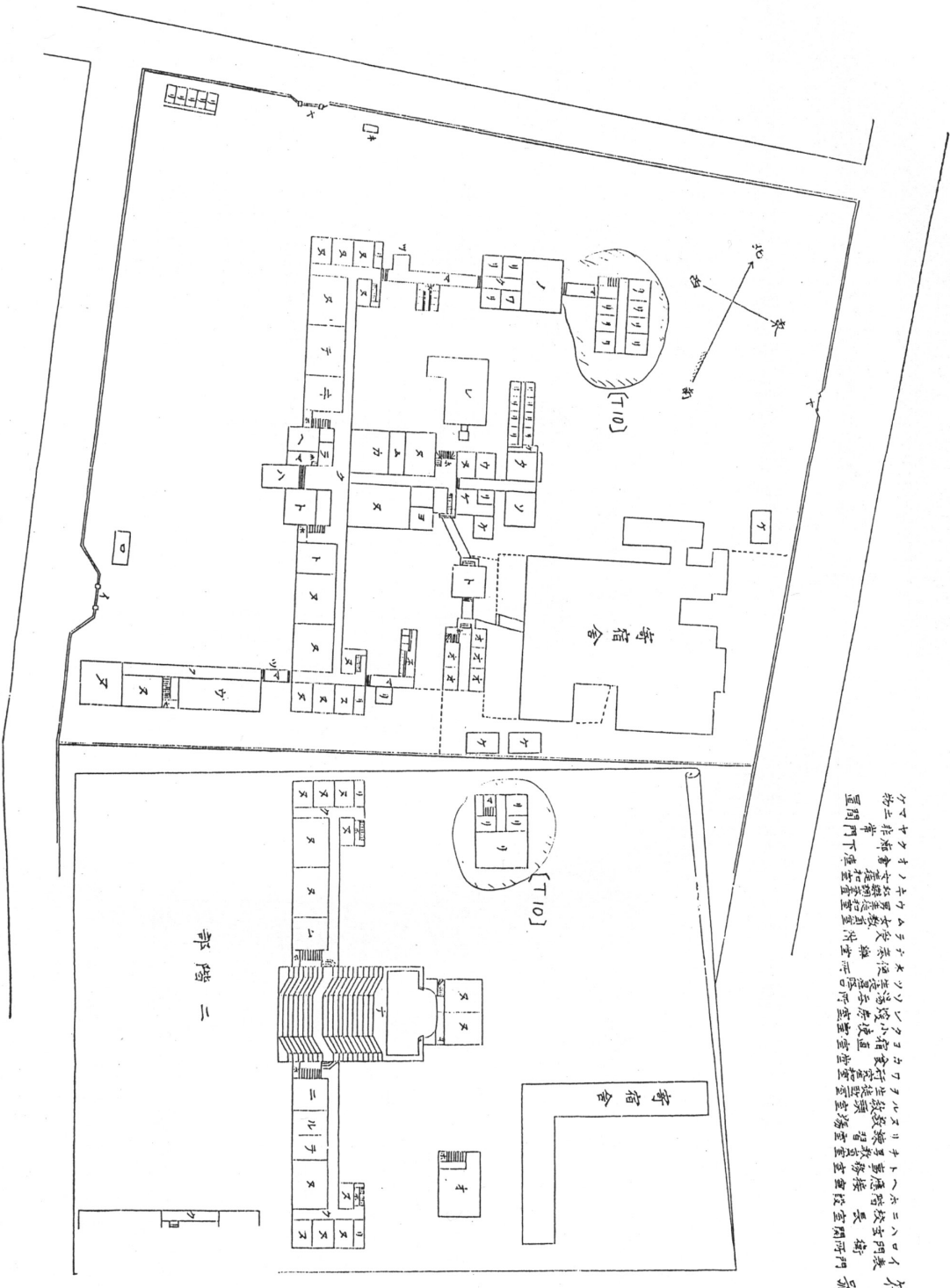
本校

東京音楽学校分教場建物圖

イ表門
ハ事務室
ニ教員室
ホ教場
ト窓簾室
チ宿直室
リ湯室
カ浴室
ケ湯室
コ置物
カコワ敷所



東京音楽学校敷地建物圖



〔東京音楽学校一覽 從昭和二年至昭和三年〕 卷末

玄關	三坪
事務室	八坪
教員控室	十二坪
生徒控室	十二坪
教室	百坪
宿直室	三坪
小使室	二坪五合
湯吞所及湯殿	五坪
廊下	五十二坪
便所	六坪
物置	七坪
階段	七坪五合

〔東京音樂學校一覽 從昭和二年至昭和三年〕一〇一〜一〇三頁

なお分教場は昭和三年十月に神田区駿河台の新校舍落成に伴い移転するが、これに関して二年度中に資料が見られるので掲載しておく。

文部省 地會二五九號

引渡書

土地

所在地東京市神田區駿河臺鈴木町十五番地

一、東京音樂學校附屬分教場敷地七百四拾七坪八號六勺

此價格金貳拾壹萬六千八百七拾九圓四拾錢但シ坪當貳百九拾圓

右ハ東京市神田區有地ナリシモ東京高等師範學校附屬分教場敷地

(神田區一ツ橋町二番地所在) 九三七坪八八九價格金貳壹六、六五
貳圓參五九ト交換ヲナシタルモノナリ

建物其他

所在地東京市神田區錦町三丁目十四番地 (東京外國語學校(二)敷地
内)

一、神田區一ツ橋通町二番地所在ノ東京音樂學校(二)建物竝工作物等

種目	建物番號	名稱	構造	數量	價格	竣工年月日
事務所建	一	教室	木階建造	二〇〇〇	二四、二四〇圓	昭和二六、一九竣工
雜屋建	二	物置	木屋建造	六六〇〇	八一〇〇〇	〃〃〃
全	三	浴室	〃	一一〇〇〇	一三〇〇〇	〃〃〃
全	四	便所	〃	六六〇〇	八七〇〇〇	〃〃〃
全	五	渡廊下	〃	三三〇〇	一六二〇〇	〃〃〃
門		木造	一	〇〇〇〇	四〇〇〇〇	〃〃〃
圍障		〃	四間五	〇〇〇〇	三六〇〇〇	〃〃〃
下水			一	〇〇〇〇	二二二五〇〇	〃〃〃
照明裝置		電燈	一	〇〇〇〇	二七四八六〇	〃〃〃
瓦斯裝置		瓦斯	一	〇〇〇〇	二四三〇〇	〃〃〃
水道		給水	一	〇〇〇〇	一八九二八〇	〃〃〃

ヲ移築ニ依ル内譯左記ノ通

右貴校附屬分教場敷地並分教場トシテ圖面相添ヘ引繼致シタルニ付
受領書御送付相成度

昭和二年十一月十四日

文部大臣官房會計課長

文部書記官 木村正義印

東京音樂學校長村上直次郎殿

追テ神田區一ツ橋通町二番地所在ノ東京音樂學校分教場建物並工作
物ハ移築ノ結果全部取毀相成タル次第ニ付御了知ノ上夫々御處理相
成度爲念申添フ

(手書き)

(自大正十年度至昭和六年度 國有財産關係書類 東京音樂學校會計課)

昭和四年六月、寮友会より女生徒寄宿舎休養室が寄附された。寄宿舎
から奥へ渡り廊下を進むと土間があり、床張りになり、それぞれ押入れ
の付いた八畳が二間ある。七月には分教場落成披露演奏会。新築成つた
分教場の資料を掲載する。

分教場ハ東京市神田區駿河臺鈴木町十五番地ニ在リ面積七百四十
七坪八合六勺、建物ハ本館ハ鐵筋コンクリート建、附屬建物ハ木造
ニシテ建坪百二十六坪三合三勺三才、延坪二百四十七坪六合六勺六
才ナリ之ヲ區分スレハ左ノ如シ

玄 關 三坪五合五勺五才

事務室 十三坪三合三勺三才

教員控室	八坪
生徒控室	十四坪
教室	二十七坪三合三勺三才
小使室	四坪五合
湯呑所及湯殿	六坪五合
廊下	二十八坪八合七才
便所	九坪七号二勺二才
物置	三坪五合
階段	三坪九合一勺五才
機關室(地階)	十坪
二階部	
教室	七十坪六合六勺六才
宿直室	四坪
廊下	二十五坪七合二勺三才
階段	四坪九合四勺四才
屋階	六坪

『東京音樂學校一覽』は「自昭和三年至昭和四年」を欠くためこれを見ることができないが、昭和四年度の図には「唱歌編纂室」が設けられており、昭和八年度以降は「邦楽調査及唱歌編纂室」が一室にまとめられる。昭和年間の交付、寄附などによる増改築のおもなものについては年譜で述べる事ができる。

昭和九年には分教場にも校長室ができ、十年には本校校舎内に調律室も用意された。

昭和十二年一月十日現在を記した前掲書「自昭和十一年至昭和十二

寄 宿 舎	計																
舍 監 室、 舍 生 室		婦 人 便 所	男 子 便 所	皇 族 便 所	渡 廊 下	物 置	倉 庫	汽 罐 室	小 使 室	門 衛 所	車 寄	生 徒 食 堂	ピ ア ノ 調 律 室	教 室 及 練 習 室	教 室、 練 習 室、 女 生 徒 控 室	教 室、 事 務 室、 圖 書 閱 覽 室	
木 造 二 階 建		木 造 平 屋 建	木 造 平 屋 建	木 造 平 屋 建	一 部 二 階 屋 建	木 造 平 屋 建	煉 瓦 造 二 階 建	木 造 平 屋 建	木 造 平 屋 建	木 造 平 屋 建	木 造 平 屋 建	木 造 平 屋 建	木 造 平 屋 建	木 造 平 屋 建	木 造 平 屋 建	木 造 二 階 建	
一		一	一	一	五	五	一	一	一	一	一	一	一	四	一	一	
延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	
一 七 七 八	一 二 七 七 九	五 五	七 七	三 三	三 〇 七	二 二 九	四 二 四	二 二 八	一 一 四	四 四	五 五	一 一 〇	四 四	六 六 八	四 四 〇	三 一 八	
〇 五 〇 〇	八 八 九 六	八 八 三 三	〇 〇 〇 〇	七 七 五 〇	六 九 四 九	七 七 四 七	〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇	五 五 〇 〇	五 五 〇 〇	〇 〇 〇 〇	二 二 五 〇	〇 〇 〇 〇	八 八 六 七	〇 〇 〇 〇	五 〇 五 〇	

合 計	計	教 師 官 舎	計						分 教 場	計							
		住 宅		便 所	渡 廊 下	物 置	宿 直 室、 小 使 室、 浴 室、 物 置	教 室	本 館 (教 室 及 事 務 室)		便 所	渡 廊 下	食 堂、 炊 事 場、 浴 場	休 養 室 (彌 生 寮)	舍 生 室、 應 接 室	舍 生 室	
		一 部 二 階 建		木 造 平 屋 建	木 造 平 屋 建	木 造 平 屋 建	一 部 二 階 建	木 造 二 階 建	鐵 筋 コ ン クリ 造 二 階 建		木 造 平 屋 建	木 造 平 屋 建	木 造 平 屋 建	木 造 平 屋 建	木 造 平 屋 建	木 造 二 階 建	
		一		一	三	一	一	二	一		一	三	一	一	一	一	
延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	延 建	
二 一 二 六 二 〇	四 〇 八	四 〇 八	四 五 四 二	七 七	一 八 八	五 五	一 一 八 四	一 九 九 一 五	二 一 〇 一 八	三 八 四 三 八	六 六	二 二 六 六	五 四 四	一 一 二 二	一 一 五 五	九 四 二 六	
五 九 〇 三 九	〇 一 〇 〇	〇 一 〇 〇	五 三 六 三	五 五 〇 〇	三 七 〇 〇	三 三 〇 〇	〇 〇 〇 〇	六 六 三 〇	〇 五 八 〇	〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇	三 三 三 〇	〇 〇 〇 〇	五 五 〇 〇	二 五 〇 〇	〇 〇 〇 〇	

〔東京音楽学校一覽 自昭和十一年至昭和十二年〕二〇九～二二頁

次は昭和十一年の『同聲會報』中の記事である。明治二十九年から昭和三年頃までの敷地の増減に言及している。

本校敷地の復舊

音樂會館建設地交付さる

本校は明治二十三年二月伊澤校長の代に現在の地、上野公園元西四軒寺跡文部省用地に建築せる校舎と校地七千八百八坪七合七勺を交付されたが、同二十九年六月校地の東南端に道路用として四十三坪一合二勺を割いた。

翌明治三十年には當時本校正門前道路を挟んで在った帝國圖書館を本校敷地内南側に新築移轉せしむることとなつたので、その敷地を本校より貸與する事となり、建物は同年八月起工、同三十九年三月竣工したが、この敷地面積三千二百八十八坪は遂に大正十一年四月一日何等の代償なくして帝國圖書館に譲渡し、校地は最初の約半分強の三千八百五十七坪六合五勺に減ぜられて了つた。

併し昭和三年に入つてからは、その十月には明治三十一年五月より震災まで、神田一ツ橋に在った分教場を復興して神田區駿河臺二丁目に新築し、敷地面積七百四十七坪八合の交付を得た。

次いで本年二月に至つては、備外國人官舎敷地として牛込區加賀町に大藏省より百七十七坪六合の有償管理換を受け、更に去る三月三十一日には多年の懸案なりし新文教、奏樂堂及音樂會館建設敷地として本郷區湯島三丁目の元東京女子高等師範學校敷地の千九百六十坪の無償所屬換を得たのである。

すなはち昭和三年以來、新に校舎敷地は二千八百八十五坪六合の擴張を見た譯で、従つて現在本校所有の敷地面積は六千七百四十三坪五勺となり、帝國圖書館へ分讓前、即ち明治二十三年二月に交付されし敷地面積と差引いて、僅かに三百七十五坪七合二勺の不足を残すのみとなつた。この不足の地面を元々通り本校々地中に取返へすことの必要なるは勿論、尙此上に本校々運の進展につれ、益々校地の擴大を要することは吾人の常に牢記すべきことである。

假りに校地の擴大が急に實現せぬとしても、せめて新時代に適應した奏樂堂、分教場と並んで我等の「音樂會館」も愈々景勝の地お茶の水に建設され、次いでは上野の現地には本校々舎が大規模に改築され、以て理由なき過去の失地に充分報ひらるべき日の一日も速に到來せむことは、吾人の成就せらるべき一大念願である。依而會員各位の深厚なる御協力御援助を心より希ふものである。

（『同聲會報』第三三三三号 昭和十一年四月 三一―三三頁）

昭和十七年一月、正門からいちはん奥まった所に木造平屋建の銃器室完成。ほぼ同じ場所にあつた物置を移した跡に建てられた。五月には寄宿舎増築。ともに上野兒童音樂学園からの寄付によつて行われた。十七年六月三十日現在で東京音樂学校の建物延面積は千五百二十九坪五勺一才、敷地内宿舍四百九十八坪八合三勺となる。本校は戦災を免れたが、以後終戦まで建物面積増加の記録はない。

なお建物面積には現れないが、東京音樂学校から文部大臣官房會計課長に提出された『昭和十八年度國有財産増減計算書』によれば、十八年十月二十日には本校の、十月二十五日には分教場の暖房装置がおのおの一個、金屬類非常回収のため取りこわされている。

十七年三月一日現在の敷地建物略図を載せておく（一三六八―一三六

九頁)。敷地東端に物置があり左側に用途の記入されていない建物があるが、これが銃器室である。銃器室ができるまで右側の物置はなかった。

銃器室建設寄附關係

音會三二二號 發送十二月一日

昭和十六年十二月一日起案

案

年月日

學校長

文部大臣宛

建物寄附受領方申請ノ件

今般上野兒童音樂學園長ヨリ當校生徒軍事教練用銃器室一棟寄附致度旨別紙願書寫ノ通申出有之タル處右ハ當校ニ於テモ從來切望セル施設ニシテ他ニ支障無之受領致度ニ付御認可相成度此段申請ス

添付書類

寄附願寫 一、

圖 面 一、

(手書き)

建物寄附願

東京市下谷區上野公園東京音樂學校構内

一、銃器室

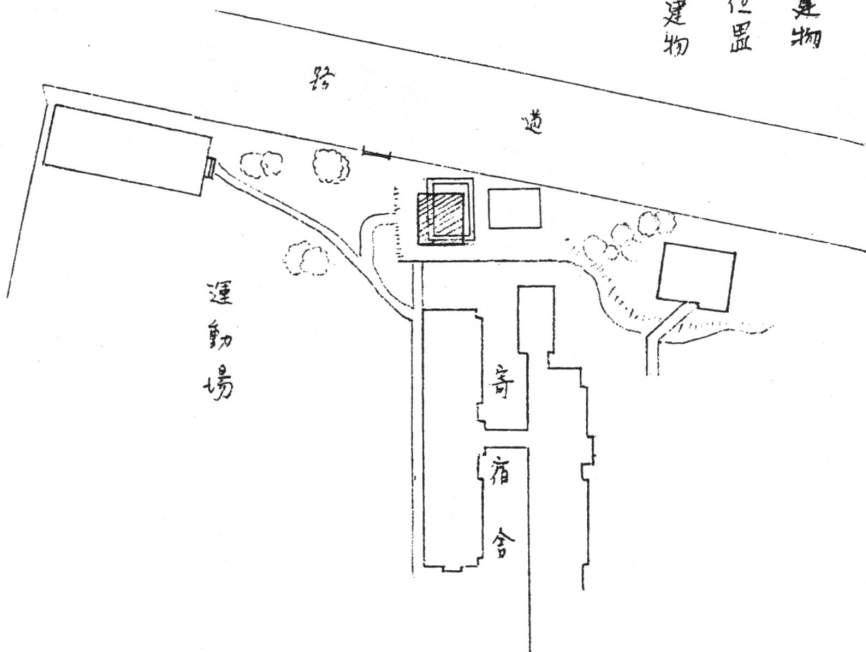
木造平屋建・建坪拾坪

一棟

設計金額 金壹千七百拾參圓也

右建物御校生徒軍事教練用銃器室トシテ建設ノ上寄附致度ニ付御受納相成度此段及御願候也
猶右建設位置ニ現存ノ建物(物置)移轉モ併セテ施行可致ニ付申添候

- 移轉建物
- 移設位置
- 寄附建物



昭和十六年十一月二十九日

上野兒童音樂學園

園長 乘杉嘉壽印

東京音樂學校長 乘杉嘉壽殿

東京音樂學校

東京音樂學校

昭和十六年十二月二日附音會三三二號申請其校建物建設寄附受領ノ

件認可ス

昭和十六年十二月十九日

文部大臣 橋田邦彦印

(和文タイプ) (昭和十六年度同十七年度 國有財産關係 東京音樂學校會計課)

音會三三三號 發送十二月一日

昭和十六年十二月一日起案

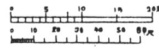
案

年月日

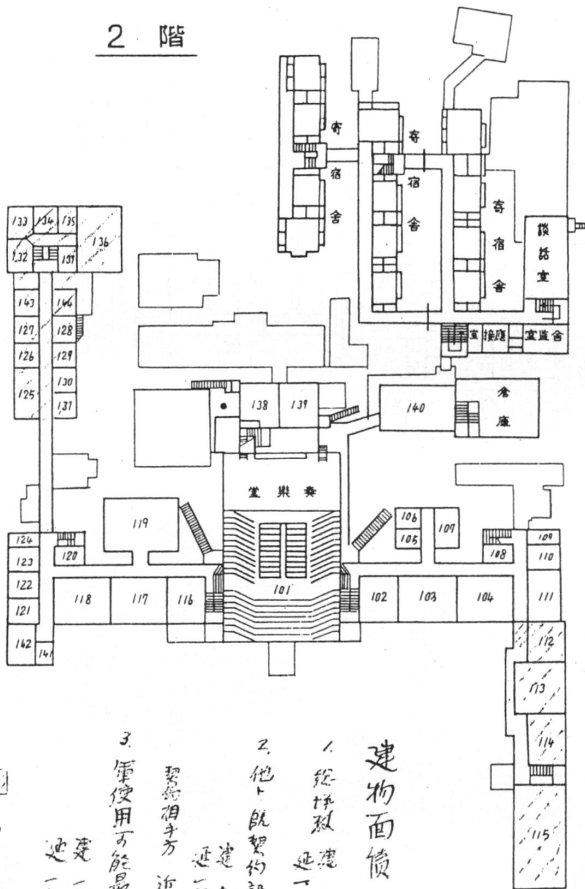
文部大臣宛

學校長

畧圖



2 階



既設部分

建物面積(校舎)

1. 延床積 九一〇.三九五
延一五三.〇五一

2. 他ト既設部分面積積 九三.〇〇〇
延一六三.〇〇〇

3. 築造積手方 延一六三.〇〇〇
延一六三.〇〇〇

4. 築造積手方 延一六三.〇〇〇
延一六三.〇〇〇

5. 築造積手方 延一六三.〇〇〇
延一六三.〇〇〇

6. 築造積手方 延一六三.〇〇〇
延一六三.〇〇〇

7. 築造積手方 延一六三.〇〇〇
延一六三.〇〇〇

8. 築造積手方 延一六三.〇〇〇
延一六三.〇〇〇

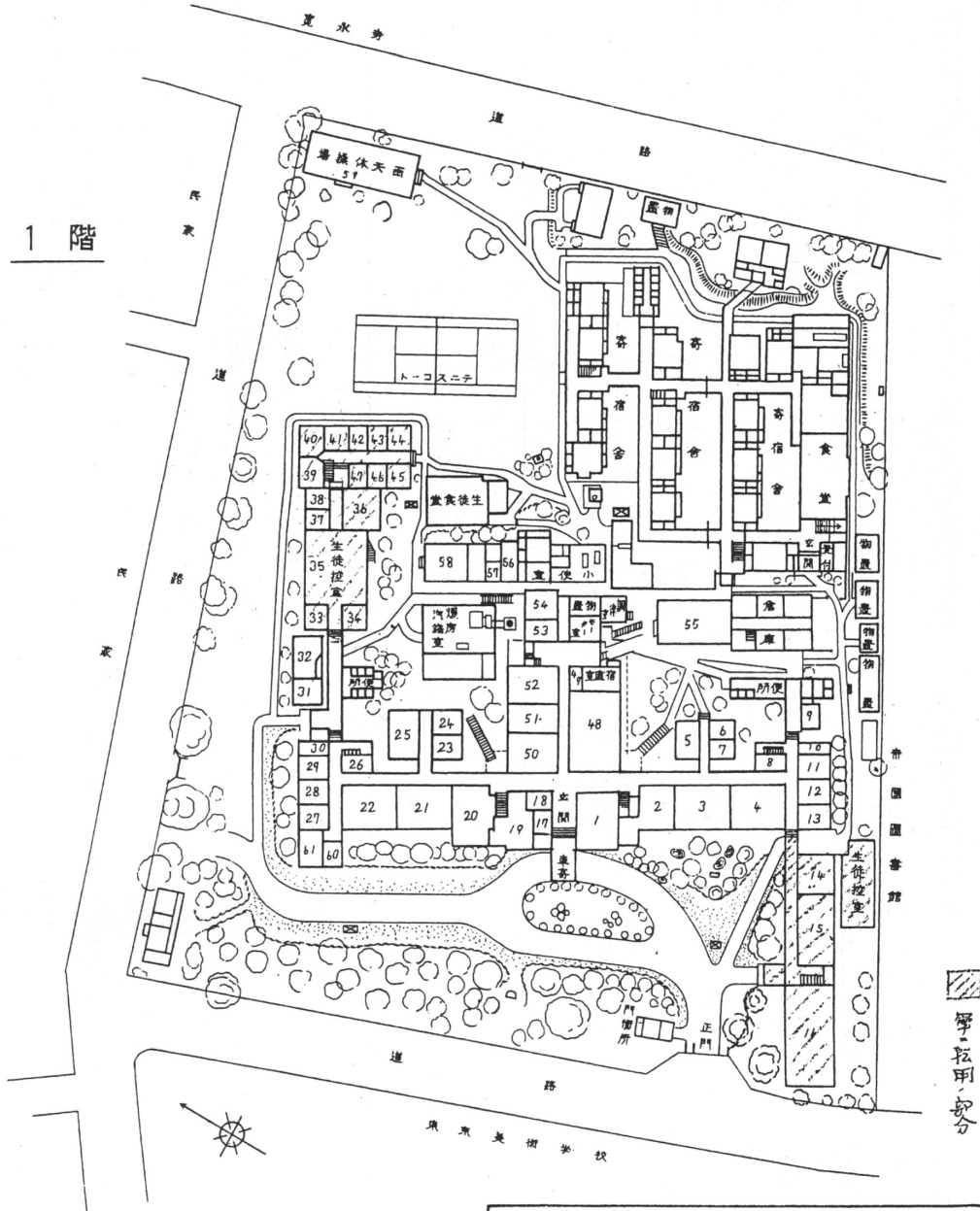
9. 築造積手方 延一六三.〇〇〇
延一六三.〇〇〇

10. 築造積手方 延一六三.〇〇〇
延一六三.〇〇〇

56-58	59	60-61	二階	101	102	103	104-115	116	117-144
教 練 室	雨 天 體 操 場	教 室	二 階	奏 樂 室	會 議 室	校 長 室	教 練 習 室	女 教 官 室	教 練 習 室

東京音楽学校敷地建物

1 階



下谷區上野公園元西四軒寺跡 敷地面積3,857坪6合

番 號	1	2	3-4	5	6-16	17	18	19	20	21	22-34	35	36-49	50	51	52-54	55
階	1	2	3-4	5	6-16	17	18	19	20	21	22-34	35	36-49	50	51	52-54	55
室 名	庶務課	會計課	教室	陳列室	教練習室	受付室	應接室	教務課	教務課	男教官室	教練習室	女生徒控室	教練習室	教官食堂	生徒徒課	教練習室	圖書器掛

建物一部移轉方申請ノ件

今般當校教練用銃器室一棟建設寄附受領ノ件ニ關シ本日別途關係書類提出ノ通受領方申請致シ置キタル處右建設ノタメ別記建物移轉ノ必要有之ニ付御認可相成度此段申請ス

口座名 東京音樂學校

所在地	種目	番號	名稱	構造	數	量	價	格	備考
東京市下谷區上野公園元西四軒寺跡	雜屋建	二三	物置	木屋建造	六坪	〇〇〇	三九八圓	〇〇〇	移轉

圖面ハ寄附關係書類ニ添付ス

(手書き)

東音會一五號

東京音樂學校

昭和十六年十二月二日附音會三二三號申請其校建物移轉ノ件認可ス

昭和十六年十二月十九日

文部大臣 橋田邦彦印

音會三二三號

發送二月一三日

昭和十七年一月二十日起案

案

年月日

學校長

文部大臣宛

(和文タイプ)

建物建設寄附受領ノ件

昭和十六年十二月十九日付東音會一六號ヲ以テ御認可相成タル上野兒童音樂學園長ヨリ建物建設寄附ノ件別記ノ通受領致シタルニ付此段報告ス

調書

口座名 東京音樂學校

所在地	種目	建物番號	名稱	構造	數	量	價	格	寄附受領年月日
東京市下谷區上野公園内東京音樂學校構内	雜屋建	五一	銃器室	木屋建造	一坪	〇〇〇〇〇〇	一、七二三圓	〇〇〇	昭和十七年一月二十日

寄附建物引渡書

一、銃器室 木造平屋建一棟拾坪

金壹千七百壹拾參圓也

右昭和十六年十一月二十九日付寄附願書ノ通本月二十日竣功致シ候

間御受領相成度此段及御引渡候也

昭和十七年一月二十日

上野兒童音樂學園長 乘杉嘉壽印

東京音樂學校長 乘杉嘉壽殿

所在地	口座	種目	構造	坪數	價	格	備考
東京市下谷區上野公園學校	東京音樂學校	雜屋建	木屋建造	一〇〇坪	一、七二三圓	〇〇〇	寄附ニ付増

(手書き) (昭和十六年度同十七年度 國有財産關係 東京音樂學校會計課)

『昭和二十二年三月三十一日現在 國有財産現在額報告書内譯 東京音楽學校』では次のように報告されている。

(乙號)

土地用途別一覽表

區分名稱	敷地	坪數	建物	坪數	備考
校舍敷地	三、二六九 ^坪	七七五	延坪一、九一〇 ^坪	三九五〇六一	台東區上野公園、本校
同	七四七	八六〇	二四二四五九	五二六三	千代田區駿河臺、分教場
同	一、九六〇	〇〇〇	〇〇		文京區湯島三丁目一番地
寄宿舎敷地	五八七	八七五	二九二五〇一	八三〇〇	台東區上野公園、本校内
官舎敷地	一七七	六〇〇	二四八四四	一〇一〇〇	新宿區市ヶ谷加賀町一ノ一四
計	六、七四三	一一一〇	二、五三二	九三三〇〇〇	

(「自昭和十六年度至同二十一年度 國有財産増減報告・同計算書 東京音楽學校」)

(手書き)

この時の「附屬圖面」のうち、本校と分教場の建物配置図を東京音楽學校の最終的な姿として掲載する(次頁以下)。なおこの図面で「銃器室」と記されている建物は、別の図面では「倉庫」と報告されているものもある。また四号練習室近くには鉛筆書きで「車庫」が記され、さらに脇に「次回二報告スルコト」と添えられている。車庫は昭和四年頃から仮設物としてこの場所にあったものが昭和二十三年一月一日付で新たに報告されたものである(「自昭和二十一年度至同二十二年度」國有財産關

係「東京音楽學校會計課」。

明治二十三年に新築された校舎は約六十年間にわたる増改築により相当な変貌を遂げた。しかし増改築のほとんどが正門から見て校舎の後側ないしは敷地の奥の方へ行われたため正門附近から捉えられる校舎の姿が大きく変わることはなく、したがって明治二十三年当時の写真におさめられた佇まいがそのまま東京音楽學校関係者に共通の記憶としてとどめられてきたのである。

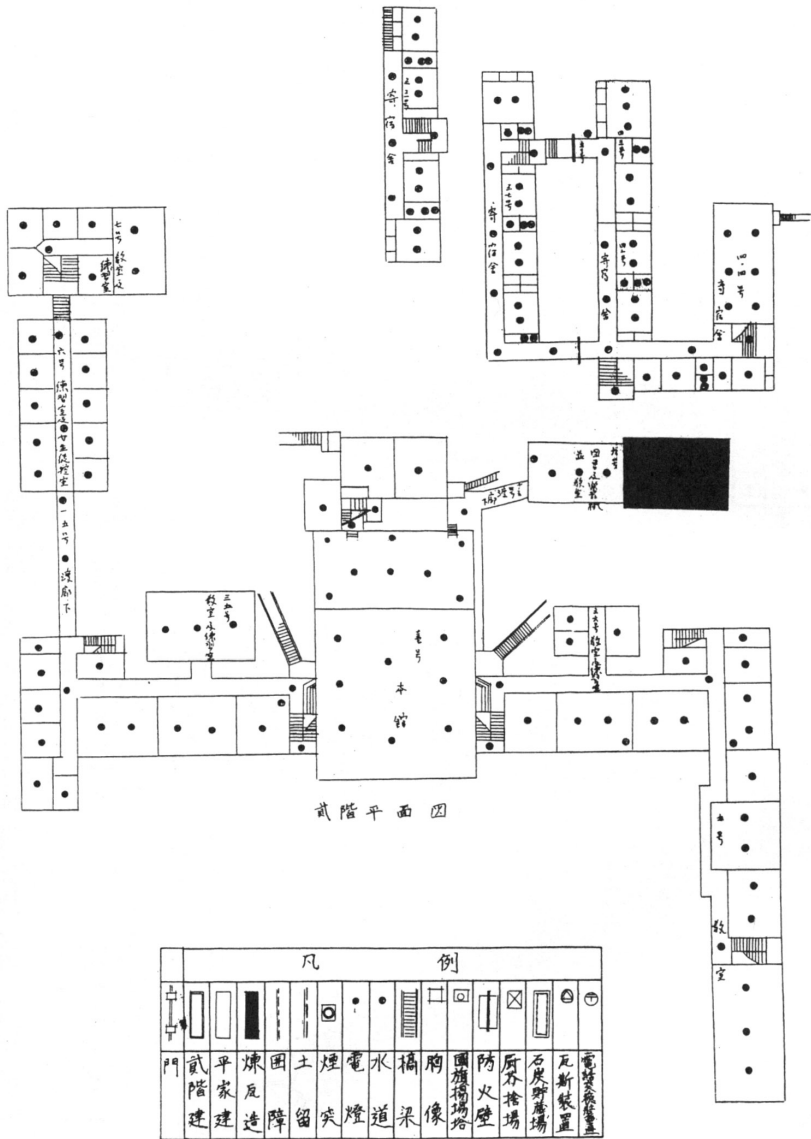
『昭和二十三年度 國有財産増減及び現在額報告書 東京音楽學校』には次のような記載がみられ、これが東京音楽學校最終年度の報告となる。図面などは添えられていない。

土地用途別一覽表

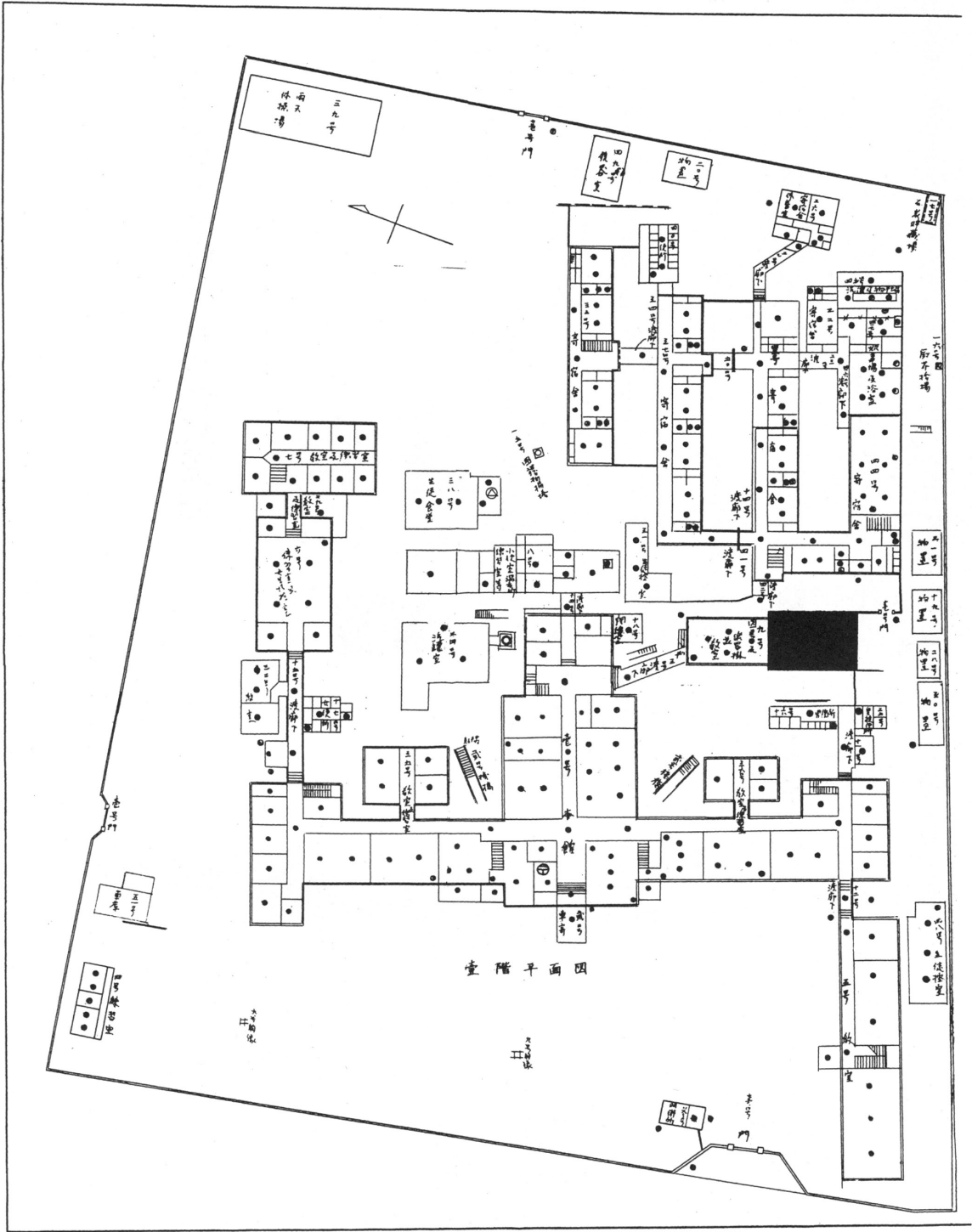
區分名稱	敷地	坪數	建物	坪數	備考
校舍敷地	三、二五九 ^坪	七七五	延坪一、九〇九 ^坪	三九五〇六一	台東區上野公園、本校
同	七四七	八六〇	二四二四五九	五二六三	千代田區駿河臺、分教場
同	一、九六〇	〇〇〇	〇〇		文京區湯島三丁目一番地
寄宿舎敷地	五八七	八七五	二九二五〇一	八三〇〇	台東區上野公園、本校内
官舎(宿舎)敷地	一八七	六〇〇	二四八四四	一〇一〇〇	新宿區市ヶ谷加賀町一の一四
計	六、七四三	一一一〇	二、五三二	九三三〇〇〇	

(「國有財産」(年度などの表記はないが、昭和二十三年度から二十五年年度の書類が含まれる))

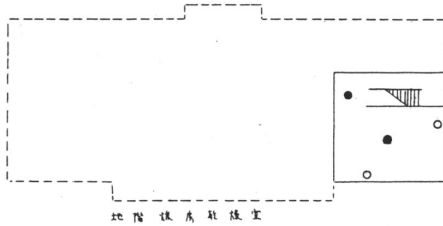
東京音樂學校建物配置圖



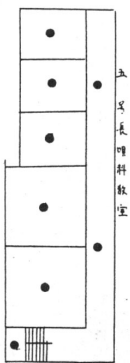
凡		例	
門	平家建	煉瓦造	防火壁
武階建		土留	石炭貯蔵場
		煙突	瓦斯装置
		電燈	電線管
		水道	
		橋梁	
		胸像	
		團旗掲揚塔	



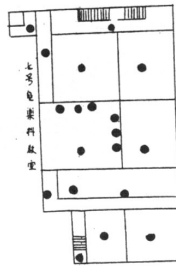
東京音楽學校分教場建物配置圖



地階課房取陸室



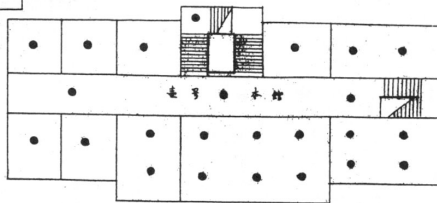
五
等
長
明
科
教
室



七
等
長
明
科
教
室



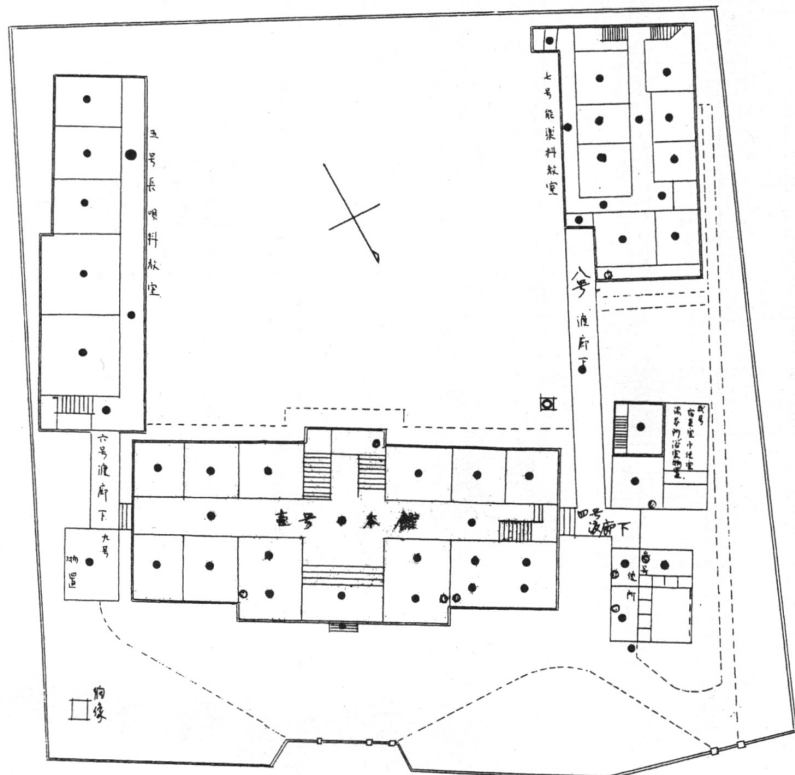
六
等
長
明
科
教
室



二
等
長
明
科
教
室

貳階平面図

凡		例							
貳階 建	平家 建	管 道	門	梁 架	床 架	箱 架	煙 突	電 燈	水 道



池階平面図